

# 13 実践！経営分析①

## ヤマダ電機編

### ヤマダ電機の決算書

実際の決算書の例として、家電量販店から3社を抜き出して比較したいと思います。まずは売上高業界1位(2019年)のヤマダ電機です。

#### ヤマダ電機の貸借対照表

年度	2018	2019	年度	2018	2019
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	52,040	51,681	支払手形及び買掛金	98,550	114,006
受取手形及び売掛金	45,968	62,848	短期借入金	129,796	237,096
商品及び製品	372,682	379,290	未払法人税等	4,757	10,701
原材料及び貯蔵品	5,121	4,311	その他	74,112	74,706
仕掛金	5,657	3,856	流動負債合計	307,221	436,515
その他	49,868	58,015	固定負債		
貸倒引当金	△ 1,840	△ 1,540	固定負債合計	279,606	155,933
流動資産合計	529,500	558,463	負債合計	586,827	592,448
固定資産			純資産の部		
有形固定資産合計	428,068	420,623	株主資本合計	582,127	586,210
無形固定資産合計	40,287	34,901	その他の包括利益累計額合計	3,391	2,273
投資その他の資産合計	177,711	170,053	新株予約権	1,153	1,493
固定資産合計	646,067	625,578	非支配株主持分	2,068	1,616
			純資産合計	588,740	591,593
資産合計	1,175,568	1,184,042	負債純資産合計	1,175,568	1,184,042

2019年度  
**安全性**  
 流動比率……………約127.9%  
 当座比率……………約26.2%  
 固定比率……………約105.7%  
 自己資本比率……………約49.7%

●安全性を示す指標は、当座比率の低さが目につく。他の数字には問題がないが、直近で多額の支払いをする能力が低い  
 ●自己資本比率が50%近くあり、借金に頼らず堅実な経営をしている様子が伺える

※端数処理の関係で、各勘定科目の数値を合計したものと、資産合計などが異なる場合があります。  
 ※項目を分かりやすくするために一部勘定科目を「その他」の項目にまとめています。

#### ヤマダ電機の損益計算書

年度	2018	2019
売上高	1,573,873	1,600,583
売上原価	1,135,758	1,159,592
売上総利益	438,114	440,990
販売費及び一般管理費	399,351	413,126
営業利益	38,763	27,864
営業外収益合計	15,646	15,850
営業外費用合計	7,073	6,825
経常利益	47,335	36,889
特別利益合計	-	1,123
特別損失合計	7,321	12,915
税金等調整前当期純利益	40,014	25,097
法人税、住民税及び事業税	12,103	14,341
法人税等調整額	△ 1,018	△ 4,038
当期純利益	28,930	14,794

2019年度

#### 収益性

売上高総利益率……………約27.6%  
 売上高営業利益率……………約1.7%  
 売上高経常利益率……………約2.3%

#### 効率性

総資産回転率……………約1.4回  
 固定資産回転率……………約2.6回

#### 成長性 (対前年度比)

売上高伸び率……………約1.7%  
 営業利益伸び率……………約-28.1%  
 経常利益伸び率……………約-22.1%

- 収益性の指標は、問題ないもののいずれも業界でもっとも悪い数字が並んでいる
- 効率性については、どちらも3社の中でもっとも低く、業界首位ながら手持ちの資産を上手く活用できていない様子が見られる
- 成長性は売上高伸び率がプラスで他がマイナスと、増収減益になっている。販管費の伸びを売上増でカバーできておらず、コストダウンが課題である
- 売上原価、販管費、特別損失の3つが前年より増えており、それぞれの収益の増加を相殺してしまっている。支出の内容や投資の適切性などは細かく分析するポイントになるだろう

#### ヤマダ電機のキャッシュフロー計算書

年度	2018	2019
営業活動によるキャッシュフロー	61,689	36,023
投資活動によるキャッシュフロー	△ 12,668	△ 8,469
財務活動によるキャッシュフロー	△ 32,920	△ 27,461
現金及び現金同等物に係る換算差額	243	△ 244
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	16,345	△ 151
現金及び現金同等物の期首残高	34,981	51,326
現金及び現金同等物の期末残高	51,326	51,175

- 営業CF、投資CF、財務CFがプラス、マイナス、マイナスとなっており、優等生タイプのキャッシュフロー計算書(→P126)といえる
- 営業CF以上に財務活動と投資活動を行なっている。営業CFが6割程度になったにも関わらず、他がそれほど下がっていない。特に大きなウエイトを占める財務活動の内容は確認したい
- 固定負債が大きく減少し、投資活動が活発ではなくなったことから、新規の借入を控えて設備投資を抑える縮小傾向が伺える